

Meet in Mito

ミートインミト

～水戸で輝く人に会いにいく～

まちを形づくるのは、風景だけではなく、そこに暮らす人の力です。この連載では、市内で活躍する方の姿をとおして、地域の魅力と未来へのヒントを探ります。

問合せ ▶ みとの魅力発信課 (☎232-9107)

05 名字に魅せられ半世紀

名字研究家 ^{たかのぶ} 高信 ^{ゆきお} 幸男 さん

名字研究家としてテレビの人気バラエティーなどに出演している高信幸男さん。高信さんが名字に興味をもったのは、高校時代のことです。小中学校では同じ名字の同級生が多かったものの、高校ではさまざまな地域から生徒が集まり、名字の種類の多さに驚いたといいます。電話帳を開いてみると、読み方すら分からない名字がずらりと並び、高信さんは名字を調べることに夢中になりました。中でも「四月朔日」と書いて「わためき」と読む名字に出会った時の衝撃が、半世紀にわたる研究への第一歩となりました。

その後、法務省に就職してからも、休

始まりは一冊の電話帳



高信さんが法務省を定年退職した後、司法書士として事務所を構えたのは水戸市でした。「水戸は、食べ物がいちよく、野菜も新鮮。自然にも恵まれ、とても住みやすい」と話します。そんな水戸には、塙、人見、市毛、川又、綿引などの名字が多い一方、薮、七字、悉知といった全国的にも珍しい名字が混在し、水戸ならではの名字の世界が広がっています。



高信さんは、これまでの名字研究の成果を紹介した書籍を多数発行しています

名字の魅力を伝える

暇を利用しては電話で問い合わせたり、直接現地を訪ねて由来を聞いたりする『アポなし取材』を行って、時にはそのお宅に泊めてもらったこともあります。全国を飛びまわり、取材を行った『珍名さん』は54年間で千人を超えます。

そんな名字研究は、法務局職員として人権事務に携わっていた当時から、役に立っていました。こどもの悩みを受け付けるミニレターに、「名字が嫌でたまらない」という悲痛な訴えが届いたのです。そこで高信さんは、名字の成り立ちや由来を伝え、自分の名字に誇りがもてるよう手助けができたことがあったそうです。

また、地域での活動の傍ら、テレビ番組の「珍名対決」企画での活躍によって、全国で声をかけられることも増えました。そのような時も名字の確認は欠かせません。「新幹線で隣に座った人が珍しい名字だったこともあるんです」と人との出会いを楽しんでいきます。

高信さんがこれほどまでに名字と人に魅了されるのは、それらに大きな価値があると考えているからです。「家に伝わる刀や壺は売買できますが、名字は先祖が遺した、お金では買えない家宝です」と語る高信さん。その言葉には、54年間名字に魅せられ続けた熱い思いが込められています。これからの講演活動などを通じて、名字の魅力を多くの人に伝えていきたいと意欲を見せています。

「戸籍をたどれば、7、8代前のご先祖まで調べることができる可能性があります。以前、相続登記の依頼を受けたときに、戸籍をもとに家系図を作ったことでもありますよ」と高信さん。

こうした専門的な知識も活かし、市民センターや学校など、地元での講演活動も積極的にに行い、特にこどもたちに、自分の名字の由来を調べることもおもしろさを伝えていきます。

